

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第18号 平成23年7月16日

貫禄の投手陣 (林・政司)

	1	2	3	4	5	6	7	R
G	2	0	0	0	0	0	0	2
G	1	0	1	7	1	1	×	1

ほぼチーム全員安打で打ち勝つ！！



7/16 (土) 三ツ池公園野球場に向き、GriffinsとのKSC公式戦を行った。本日気温は、夏日そのものという予報であり、そのせいか、前の組の球場使用は無いというこの暑さの中でゲームは始まった。今日のマウンドは、怪我からの復活をとげた、林がマウンドに上がった。怪我とは関係無いと思うが、若干体が重そうに感じたのは、私だけであろうか？ そんな林は、先頭打者にストレートの四球で出塁を許す、しかし、牽制で見事に走者を刺し一死、しかし、後続には中前に運ばれ、またもや出塁を許す。後続を三塁ゴロに斬り二死を捕るが、後続は四球で出塁、その後、DSを決められ、二死2・3塁の場面、4球目を右前にアンラッキーな打球を運ばれ、2点を献上、しかし後続は空三振を捕り、初回を終えた。この裏の攻撃は、無安打で1点、続く3回にも無安打で1点を挙げ同点とした。ビッグイニングは4回。ここまで僅か1安打と苦しんでいた緑が、2 - 3のカウントから右中間に2ベースを運び、無死2塁、後続の犠打で三塁へ、相手守備が乱れ、犠打者も1塁へ。ここで、林が後続の初球にのろのろと盗塁？を試み、このプレーの間に、緑がホームインし、逆転に成功した。こののろのろ走塁に動揺したのか、1死満塁の大量得点の場面に変貌、この場面に最近打撃好調の哲也が、鋭い打球を左線に運び、走者の一掃の2ベースとした。後続のこーすけも、見送ればボールの悪球を左中間へ2・ランとし、ほぼゲームを手中に収めた。先発した林は、5回でマウンドを降りたが、危なかったのは、初回のみで、73球でマウンドを降りた。我がチームの攻撃は、5回に1点、6回に1点を追加し、ゲームを決めた。2番手としてマウンドに上がった政司も2回を打者6人、危なげない投球でゲームを締めた。その締めた背景には、センター智の好守備が光っている事は、言うまでもない。6番打者が安打を決めていれば、全員安打というところであるが、まー。その辺はご勘弁というところであろう。途中からサードに入った、田島も相変わらずの固さは否めないが、難しいバウンドを裁けたところは、進歩の証かも知れない。ただ、その送球を待っていた、ファーストこーすけの不満そうな表情はチーム全員が確認した。恐らくビシッ！と送球して欲しかったのであろう。 さー、こんな大勝をしたゲームの中で感じた2点。

1. 走塁に関して
左ラインぎりぎりの打球の行方を見続け、走塁を怠ったのは、少し頂けない。柵を越すのか？越さないのか？入るのか？切れるのか？という打球の行方を見てしまう、という気持ちは、非常に分かるが、やはりここは走っておくのがセオリーであろう。結果として、風にもどされ、フェンス際に落ちたのを確認してから走塁を開始したのに、悠々と2塁まで到達出来たのだから、走っていればホームまで帰ってこれたであろう。
2. 越えかけ不足による、失策と危険なプレー
・ 投手とサードの間に飛んだ打球を投手が反応したが、あのボールは、サードが載くべきボールであった。後ろから、捕球体勢に入ると、後ろに逃げていくボールを追いかけるのでは、やはりサードの方が守備がし易いので、ここは、声掛けが不足してしまった。
・ 結果的にセンターの好守備になった飛球処理であるが、ベンチから見ている限り交錯すると思われた。頼むから怪我しないでくれ！という願いであったが、ビデオを見返した結果、上手い事前に入っている事が確認出来た。しかし、過去、GのY選手が大怪我で、ほぼ選手生命を逸した事実もあるので、ここは、危険回避からも声掛けプレーを実践して欲しい。
どんなに暑くても・苦しんでも勝利する事が、疲れを癒す一つの要因になる。まだまだ暑い時期が続くので、この癒しの一つを追い求め、勝利をどんどん目指して行きましょう！